

生物多様性条約第10回締約国会議の開催

2010年に180カ国、国際機関、NGO等の参加により、生物多様性保全の目標「愛知目標」などが採択され、県にとって生物多様性への取組を推進していく大きなきっかけとなった。



締約国会議



生物多様性国際自治体会議



生物多様性国際ユース会議



子どもCOP10あいち・なごや

ユネスコ世界会議の開催

2014年の持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議の開催により、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して取り組むことの重要性が再認識された。



全体会合の様子



歓迎レセプション



ESDあいち・なごや子ども会議



ESDイヤーキックオフイベント

1 環境問題の変遷と環境政策

2 愛知県環境基本計画

3 環境局の主な取組

愛知県環境基本計画

- 愛知県環境基本条例に基づき策定
- 本県における環境の保全に関する長期的な目標・施策の方向性を示すもの

愛知県環境基本計画（1997年8月策定）

「あいち環境社会」の実現
(循環を基調とした社会、多様性が尊重され共生が進む社会、
文化的で感性豊かな社会、自立と協働が進む社会)

第2次愛知県環境基本計画（2002年9月策定）

「循環」、「共生」、「安心」、「協働」を通して「あいち環境社会」を実現

第3次愛知県環境基本計画（2008年3月策定）

「脱温暖化」、「資源循環」、「自然共生」、「安全・安心」、「参加・協働」を通して
「自然の叡智に学ぶ持続可能な循環型社会づくり」を実現

第4次愛知県環境基本計画（2014年5月策定）

「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』」を実現

【社会経済情勢の変化】

【環境を取り巻く状況】

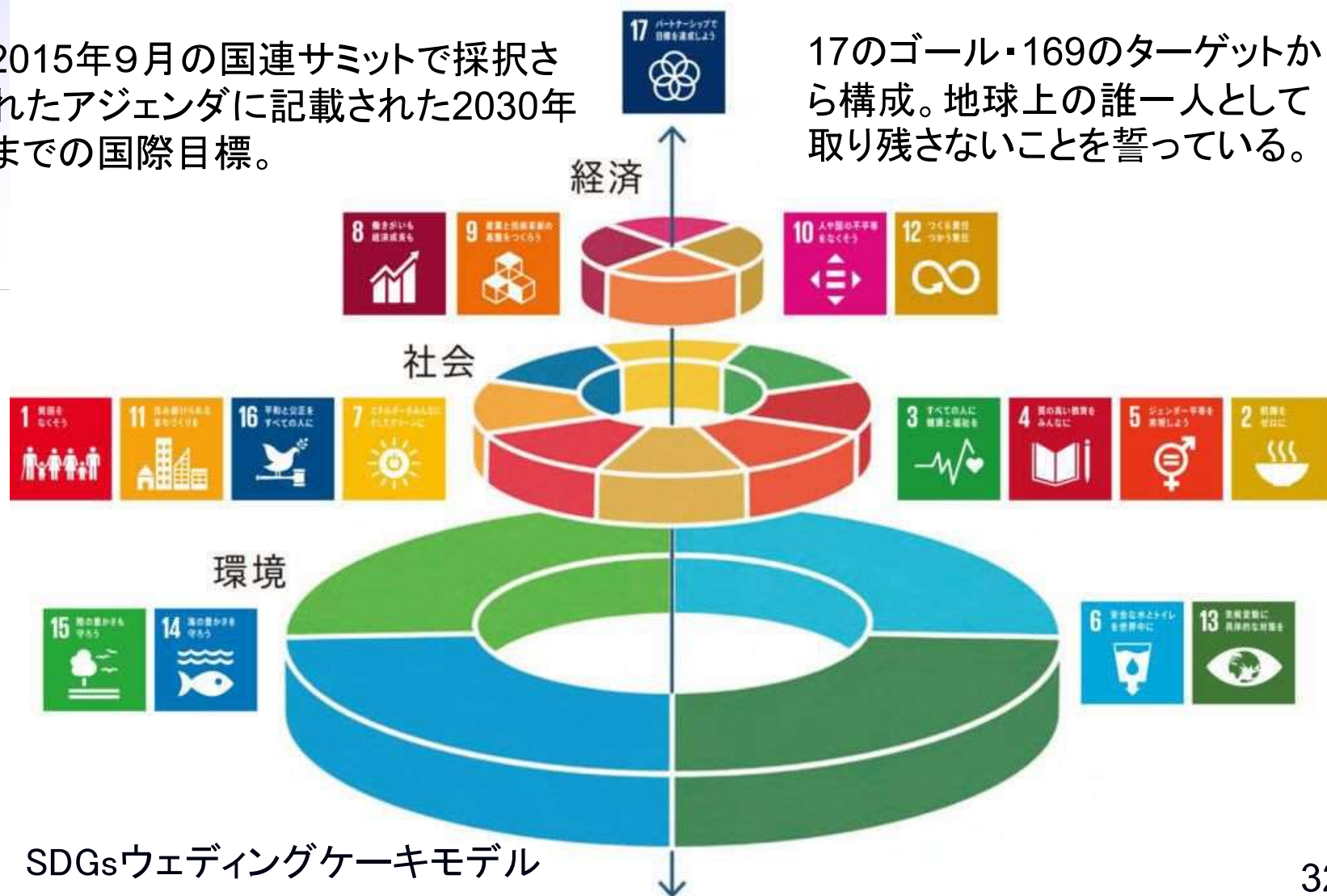
第5次愛知県環境基本計画（2021年2月策定）

「SDGs達成に向け、環境を原動力に経済・社会が統合的に向上する
『環境首都あいち』」を実現

SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標)

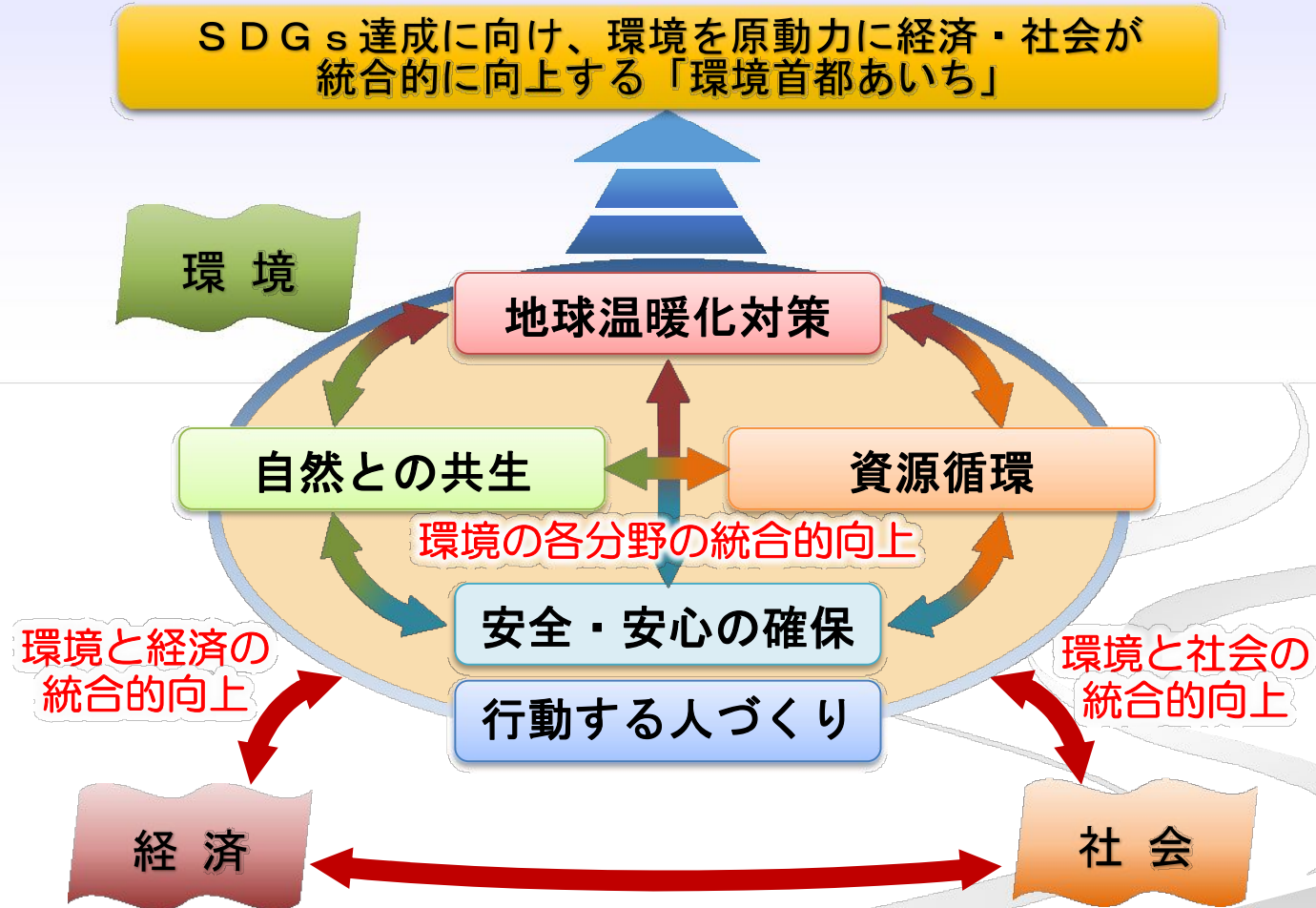
2015年9月の国連サミットで採択されたアジェンダに記載された2030年までの国際目標。

17のゴール・169のターゲットから構成。地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。



SDGsウェディングケーキモデル

環境施策の展開イメージ



【目指すべき姿】

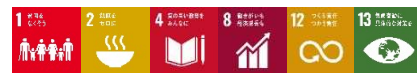
- 環境の各分野の統合的向上：日本一環境にやさしいあいち
- 環境と経済の統合的向上：環境と経済成長が好循環しているあいち
- 環境と社会の統合的向上：地域が活性化している魅力あるあいち

第5次愛知県環境基本計画

重点施策の設定

複数の課題を統合的に解決する施策のうち、特にSDGsの多くのゴールに貢献する9つの施策を重点施策として位置づけ推進

- ① 再生可能エネルギーの導入拡大・徹底した省エネルギーの促進と環境産業の振興
- ② 次世代自動車の普及拡大
- ③ 「あいち方式2030」推進プラットフォームの構築
- ④ 地域循環圏づくり
- ⑤ プラスチックごみゼロ
- ⑥ 食品ロス削減
- ⑦ 海域の生物多様性や水産資源の生産性を考慮した水質改善
- ⑧ SDGsの普及促進
- ⑨ 誰もが学べるあいちの環境学習による人材育成と自主的取組の促進



1 環境問題の変遷と環境政策

2 環境基本計画

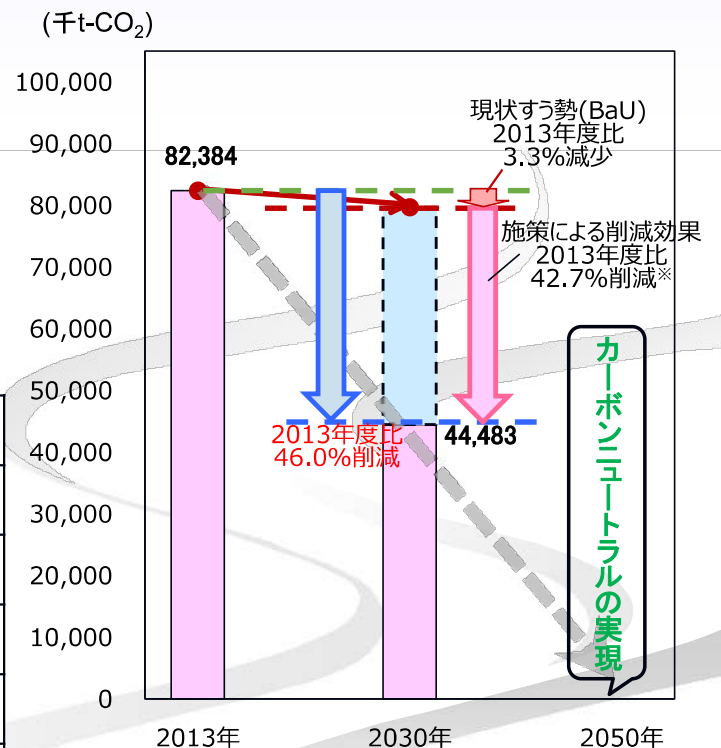
3 環境局の主な取組

ア 地球温暖化対策

あいち地球温暖化防止戦略2030(改定版)(2022年12月策定)では、2030年度の県内の温室効果ガス総排出量の削減目標を、2013年度比で、これまでの26%減から**46%減**に大幅に引き上げ、2050年までに**カーボンニュートラル**の実現を目指している。

- 目標の実現に向けて、以下の**6つの重点施策**を柱として、「**徹底した省エネルギー**」と「**創エネルギーの導入拡大**」を加速するとともに、「愛知発の脱炭素プロジェクト」等の取組を進めている。

重点1	脱炭素プロジェクトの創出・支援
重点2	意識改革・行動変容
重点3	建築物の脱炭素化の推進
重点4	脱炭素型事業活動の促進
重点5	ゼロエミッション自動車の普及加速
重点6	水素社会の構築



※施策による削減効果42.7%削減の内訳
・国の施策による削減効果：38.4%減
・県の追加的な施策による削減効果：4.3%減

ア 地球温暖化対策

重点1:脱炭素プロジェクトの創出・支援

あいちカーボンニュートラル戦略会議

- 本県のカーボンニュートラルの実現に向け、**革新的・独創的な民間の発想を活かした事業・企画アイデアを募集**
- 学識者で構成される「あいちカーボンニュートラル戦略会議」による事業化すべきプロジェクトの選定、具体化・実践

<2021年度選定>

- ・ 矢作川・豊川CN(カーボンニュートラル)プロジェクト
- ・ アジア競技大会選手村後利用事業における「街区全体で統一的に木造・木質化を図るまちづくり」プロジェクト

<2023年度選定>

- ・ CO2コンクリート固定化技術を用いた域内カーボンリサイクルプロジェクト
- ・ 荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト

<2024年度選定>

- ・ ペロブスカイト太陽電池普及拡大プロジェクト
- ・ 地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクト



矢作川・豊川CNプロジェクト
イメージ図

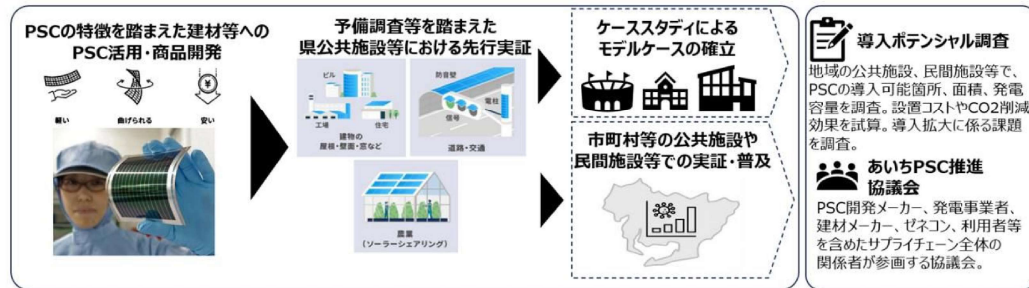
ア 地球温暖化対策

2024年度選定プロジェクト

ペロブスカイト太陽電池(PSC)普及拡大プロジェクト

【提案企業】 株式会社アイシン、中部電力ミライズ株式会社、関西電力株式会社

【概要】 ペロブスカイト太陽電池の導入モデルスキームを構築・横展開し、開発メーカーや発電事業者等の投資を活性化することで、全国に先駆けて社会実装する。

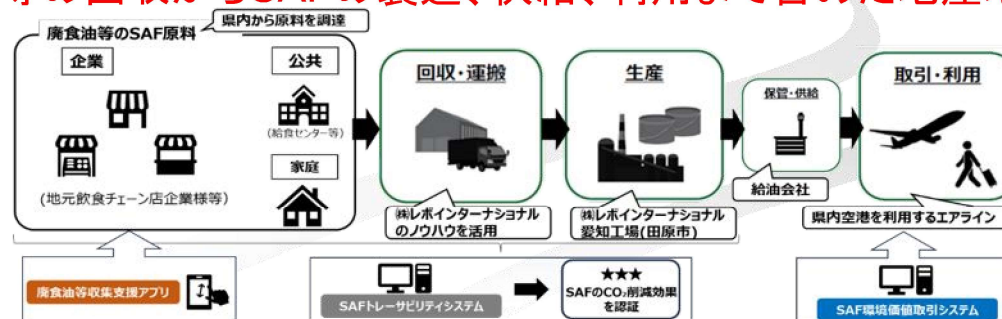


あいちPSC
推進協議会
第1回会議
5/30開催
86団体参画

地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクト

【提案企業】 株式会社レボインターナショナル、株式会社NTTデータ

【概要】 原料となる廃食油等の回収からSAFの製造、供給、利用まで含めた地産地消サプライチェーンを構築



ア 地球温暖化対策

重点2：意識改革・行動変容

あいちCOOL CHOICE 県民運動

小学生等向け出前講座「ストップ温暖化教室」、「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」等を実施



あいちエコアクション・ポイント

県民の環境配慮行動に対してポイントを発行し、脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換や行動変容を促進

重点3：建築物の脱炭素化の推進

住宅用地球温暖化対策設備導入補助

県と市町村による協調補助を実施(2003年度～)補助メニューの追加を随時実施

重点4：脱炭素型事業活動の促進

事業者向け再エネ・省エネ設備導入補助

2022年度から国の交付金を活用して事業者向け補助を実施

中小企業等の脱炭素経営支援

- ・「あいち脱炭素経営支援プラットフォーム」を核として、地域ぐるみで中小企業等の脱炭素経営を支援(伴走型省エネ診断等)
- ・中小企業のSBT認定取得支援
- ・あいち省エネ相談

地球温暖化対策計画書制度

条例に基づき事業者は計画書等を提出し、県が評価・公表・助言を実施

あいちカーボンニュートラルチャレンジ

事業者がCO₂削減目標等を自ら宣言し、県が認定・公表を実施

ア 地球温暖化対策

重点5: ゼロエミッション自動車の普及加速

事業者のEV、PHV、FCVなどの先進環境対応自動車導入補助
(FCV・EV・PHV保有台数 51,000台 全国第2位 (2024.3月末))



「プリウスPHV」



FCV「MIRAI(ミライ)」

自動車税種別割の課税免除

EV・PHV・FCVに対し、課税免除(購入年+5年)を実施。2012年1月開始

EV、PHV充電インフラ整備促進費補助

2024年度から整備費を補助(1,633か所(2024.3月末))

水素ステーション整備費補助

(整備数34か所) 日本一 (2025.3月末))

燃料電池商用車燃料費補助

2025年度からFC商用車の使用者に充填する水素と既存燃料価格の差額を補助

重点6: 水素社会の構築

中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議

自治体や経済団体等が一体となり、水素及びアンモニアのサプライチェーン構築及び利用促進を図る

中部圏低炭素水素認証制度 再生可能エネルギー等を活用して製造したCO₂の排出が少ない水素を低炭素水素として認証・情報発信する制度

低炭素水素モデルタウン事業 (環境省委託事業) 水素ステーションを地域の水素供給拠点として、FCVだけでなく燃料電池・水素給湯器など、幅広い利用先に低炭素水素を供給するモデル事業

イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

○「人と自然が共生するあいち」の実現に向けて、県内における生物多様性保全の取組を推進

【愛知目標(目標年:2020年)】

・COP10(2010年 愛知県)で採択

【新世界目標(目標年:2030年)】

・COP15第2部(2022年12月 カナダ・モントリオール)で採択

ex:30by30(陸と海の30%以上を保全)

・多様な主体が参加する生態系ネットワーク協議会を、県内9地域で設立
(2024年3月末現在:301団体加盟)

・協議会ごとに、大学、NPO、企業、行政等による様々なコラボレーションを展開中

海外との連携

・国際自治体会議への参加

COP11
(2012年 インド)

COP12
(2014年 韓国)

・「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合」(GoLS)の設立(2016年8月)

構成:愛知県、ケベック州等9団体
[2023年3月末現在]

・COP13(2016年 メキシコ)
自治体連合として共同声明を発表

・COP14(2018年 エジプト)
サブナショナル政府の役割の重要性を発信

あいち生物多様性戦略2030(2021年2月策定)

全ての主体がコラボレーション(協働)により生物多様性の保全を進める

生態系ネットワークの形成
科学的知見に基づく多様な主体の協働により、生物の生息生育場所を確保し、つなげていく。

生物多様性主流化の加速
県民の日常生活、企業や行政等の社会経済活動に生物多様性が組み込まれ、行動につながる。

重点プロジェクト(10項目)

A 湿地・里山ネットワーク	F 鳥獣の保護・管理の推進
B 希少な動植物の保全	G 事業者の保全活動の推進 (あいちミティゲーションの深化)
C 外来生物対策の強化	H あいちの自然体感の推進
D 地域の保全活動の更なる活性化	I 国際連携の推進
E 都市の自然の価値再発見	

J 推進プラットフォームの構築

世界目標の
推進に貢献

COP16
(2024年10月
コロンビア)

・併催会議等で、
愛知県・GoLSの取組を発信

COP15第2部
(2022年 カナダ)
・世界目標の達成に向けて、国際機関等と連携しながら、愛知県・GoLSとして引き続き活動していく意思を表明



※COP15第2部併催の
第7回国際自治体会議にて、
ビデオメッセージ発信

イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

生態系ネットワーク協議会

大学、NPO、企業、行政など
多様な主体の協働の場として、
県内全域をカバーする9地域で
生態系ネットワーク協議会を
設立（2011～2016年）



イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

あいち生物多様性企業認証制度

2022～2024年度の認証状況

区分	企業数※
優良認証	28社
認証	39社



生物多様性サポーター

自然や生きもの応援してくれるみなさん!

募集 あいち 生物多様性 サポーターズ

「人と自然が共生するあいち」に向けて、生物多様性に配慮した行動を始めませんか。

唐崎(山)

唐崎(海岸)

湿地(源田(カキツバタ群生))

外米原(オオキンケイギク)

登録はコチラ

個人サポーター

- 自然や生きものに関心のある方

団体サポーター

- 生物多様性保全に貢献していきたい企業
- 県内で生物多様性保全に取り組んでいるNPOなどの各種団体

※登録いただいた方には、生物多様性に係るイベントなどの情報をお届けします。

あいち生物多様性サポーターズ事務局

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
Tel : (052)954-6475(ダイヤルイン) / Mail : shizen@pref.aichi.lg.jp

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。生態系・種・遺伝子という3つのレベルで多様性があひます。

あいち生きものステーション

イ 自然との共生 ～あいち森と緑づくり事業～

2009年度から「あいち森と緑づくり税」を創設。森と緑の持つ様々な公益的機能の発揮のため、森林、里山林、都市の緑を整備保全等の取組を推進

- ・奥地や公道・河川沿い等整備が困難な森林の間伐
- ・放置された里山林の再生

- ・都市の身近な樹林地の保全、緑地創出
- ・美しい並木道の再生
- ・県民参加での樹林地整備や植樹、緑づくり活動支援

- ・市町村、NPO等が行う環境保全活動や環境学習への支援

- ・森林整備技術者養成
- ・小中学校に県産木材製の学習机・椅子、下駄箱等導入



木の香る学校づくり



【奥地林の間伐】



【里山林再生整備】



【都市緑化】小学校校庭



【環境活動】苗木の植樹



【環境学習】水田で親子自然観察会